2026年8月1日発行（隔月1回1日発行）No.1054号

JA全農えひめ情報

みぐりーど

2026 8 Aug. - 9 Sep.



特集

環境と調和した持続可能な農業の実現に向けて

全農 JA全農えひめ



▲さといもの葉陰から笑顔を見せる浅野奈緒美さん。「やるときは、とことん！」と、趣味の日本舞踊と三味線も師範の腕前



▲浅野さんの40ａのさといも畑



▲炎天下でさといも畑の草刈りに精を出す浅野さん



◀まだまだ大きくなるさといもの葉。地下で育つさといもを収穫する12月が待ち遠しい

さといもの栽培（今治市）

浅野奈緒美さん（48歳）はＪＡおちいまばりさといも部会に所属し、今治市街から大西町へ通い農業、農地は全て借地で、トラクターなど10台の農業機械を所有しています。浅野さんには農業をしたい夢がありました。人生を振り返った40歳、気力・体力的にも今しかないと農業法人に飛び込みます。祖母との大根掘りの楽しい思い出、テレビで流れるほのぼの豊かな農業ライフを夢見て。

現実は女性差別のない（笑）過酷な農作業が待っていました。剣道部で培ったアスリート魂に火がつきます。機械を使いこなし、一通りできるようになると、自分で農業をしたいと思うようになり、44歳で惜しまれつつも法人を去ります。且つ、畑30ａ拝借の恩を受けて。1年目はがむしゃらに1、000株のきゅうりを栽培。出来は良くても値は安く、忙しくも生活は苦しい。2年目はキャベツを追加。都会で1玉1、000円の当たり年で、収入倍増ながら納税もまた跳ね上がりました。

浅野さんの特技は周囲の人を味方にしていくこと。機械が壊れれば駆けつけて、困りごとは教えてくれる。どんどん人を巻き込み、独立から5年。うちの畑も借りて！の声に応えて3haでキャベツ、さといも、きゅうりを栽培し、手一杯。昨年からご主人を巻き込み、二人農業をしています。「収穫に限らず、畝立て、草刈りも、農業は達成感に満ちている」、「農業は定年がなく、死ぬまで挑み続けられる」、農業愛が止まりません。今春発足したＪＡおちいまばり農業女子グループ〝ＲＯＯＴＳ（ルーツ）〟ではリーダーとして、農業の魅力の種を広く植えつけていくことでしょう。

JA全農えひめ情報

あぐり～ど

2026年8－9月号

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

○営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。

○安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。

○地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



猛暑続きの日々に水分がたっぷりとつまった、冷やしたきゅうりを召し上がれ。サラダに漬物、酢の物、和え物、炒め物、ピクルス、薬味、スイーツだってできますよ。ちょっと味噌が苦手なボクだけど、お父さんに食べさせてもらう〝もろきゅう〟は大好物になりそうですね。お父さんのさりげない食育も大正解!!

●表紙：きゅうり
小林　恵（イラストレーター）

※「あぐり～ど」は、「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（Lead）する」という意味と「心を一つにする（Agreed）」という意味を込めています。

農の風景 －応援！農業人－ Vol.253
さといもの栽培（今治市）

2 〈特集〉
環境と調和した持続可能な農業の実現に向けて

8 THE・ねっとわーく
ＪＡ全農新会長に吉見一弥副会長が就任！

10 グループ会社 常勤役員の体制について

11 令和８年度 新規採用職員紹介

12 ふるさと ESSAY VOL.321
四国遍路のお寺から③
本当に思っていることを正直に話す
白川　密成さん

14 TOPIC NEWS

20 READERS通信

NOW NOW COOKING
〈今月の素材〉ピーマン

JA全農えひめ

ホームページ
https://www.zennoh.or.jp/eh/

■お取り寄せ・JA全農えひめ直販ショップ
https://www.ja-town.com/shop/c/c7201/
※愛媛の旬の農産物と加工品をお届けします！

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
https://www.zennoh.or.jp/eh/food/
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆㈱えひめ飲料
https://www.ehime-inryo.co.jp

◆JAえひめアイパックス㈱
http://ai-pax.jp/

◆JAえひめフレッシュフーズ㈱
https://fresh-ranran.jp/

◆㈱ひめライス
https://www.himerice.jp/

◆JAえひめエネルギー㈱
https://www.ja-ehimeene.co.jp

◆JAえひめ物流㈱
https://www.jat-ehime.co.jp/

特集

環境と調和した持続可能な農業の実現に向けて
～「グリーンメニュー」と「よりよい営農活動」の一体的推進～

（営農畜産振興部　営農支援課）

はじめに

近年、農業を取り巻く環境は大きく変化しています。気候変動による農業被害の増加、世界情勢の影響による生産資材価格の高騰、さらには食料安全保障への関心の高まりなど、持続可能な農業経営の実現が全国的な課題となっています。

特に直近においては、猛暑や豪雨などの異常気象が頻発し、農作物の品質低下や減収をもたらす大きな要因となっており、従来どおりの生産体系だけでは安定した経営の継続が難しくなりつつあります。このような状況のなか、環境への配慮と経営の安定を両立させる持続可能な農業の実現が求められています。

こうしたなかで、国は「みどりの食料システム戦略」を策定し、農業生産と環境負荷低減の両立に向けた取り組みを推進しています。

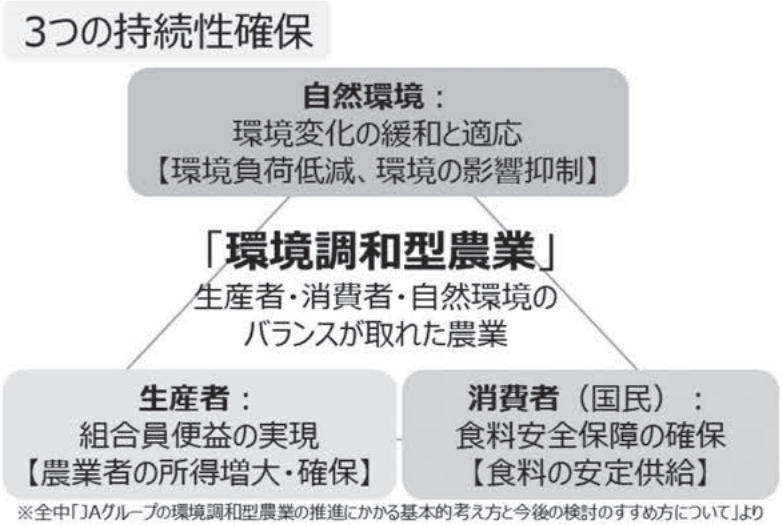
これらの動きを踏まえ、ＪＡグループ愛媛では、第39回ＪＡ愛媛県大会決議に基づき、「環境調和型農業」と「よりよい営農活動」を両輪として推進することとしています。

1. 環境調和型農業の基本的考え方

ＪＡグループでは、「環境調和型農業」を「農業の持続性確保の観点から、生産者の便益と食料安全保障を確保しつつ、自然環境への負荷の緩和と適応を図る農業」と定義しています。

その特徴は、農業生産による環境負荷を減

【図１】環境調和型農業の基本的考え方



※全中「JAグループの環境調和型農業の推進にかかる基本的考え方と今後の検討のすすめ方について」より

らすだけでなく、次の「3つの持続性」のバランスを図りながら、将来にわたって営農を続けられる農業を目指していることにあります。

- 自然環境：環境負荷の低減と気候変動への適応
- 生産者：所得確保・労働生産性向上など経営の持続
- 消費者：安全・安心な食料の安定供給

このように、環境・経済・社会を一体的に捉えた、現実的かつ持続可能な農業への転換をめざしています。

2. 現場実践を支える「グリーンメニュー」

環境調和型農業を具体的に進めるツールとして、全農グループでは「グリーンメニュー」を展開しています。グリーンメニューは、環境負荷低減だけでなく、生産性向上・労働時間の削減・コスト低減・産地課題の解決といった経営面の効果も重視した実践メニューです。

愛媛県ではモデルJAにおいて、被覆肥料プラスチック流出防止・水稲ペースト肥料施肥技術・環境に配慮したIPM防除体系・天敵農薬の活用・紙マルチによる廃プラスチック削減・Z-GIS等を活用した営農データの見える化などに取り組み、実証成果の蓄積を進めています。今後はこれらの成果を県内JAへ横展開し、それぞれの産地や品目に応じた取り組みを進めていきます。

【図2】グリーンメニューについて

(1)全農は31の資材・技術からなる「グリーンメニュー」を策定した。
(2)今後、開発中の新資材や新技術について効果を検証し、順次メニューの追加を進める。
(3)また、本会発信の技術に加え、生産現場や地域発信の技術も拾い上げながら拡充を進める。

全農が策定したグリーンメニュー

化学肥料低減

施用量の適正化・局所施肥
- ●土壌診断による適正施肥
- ●可変施肥
- ●ザルビオ（生育AI予測）
- ●園芸局所施肥技術

化学肥料の代替化
- ★堆肥入り混合肥料
- ●★緑肥
- ●バイオスティミュラント資材
- ●★堆肥・未利用資源の活用

化学農薬低減

農薬効果の最大化
- ●ザルビオ（水稲病害発生予測）（大豆雑草管理プログラム）
- ●ドローンによる省力散布

化学農薬の代替化
- ★IPM防除体系
- ★土壌還元消毒
- ●★緑肥

温室効果ガス削減

CO_2の削減
- ★脱(低)石油燃料対応型加温機
- ●自動操舵農機
- ●自動給水機

水田メタンの削減
- ●秋耕
- ●水田中干し期間延長
- ●稲わら腐熟促進資材

脱プラ

化石由来資源の低減・転換（脱プラの取り組み）
- ●★水稲ペースト施肥
- ★プラスチック被膜殻の流出防止
- ●★生分解性マルチ
- ●新規肥効調節型肥料
- ★環境配慮型包装資材（減プラスチックフィルム）

【R7年度追加メニュー】
- ●土壌分析による適正施肥（地力窒素分析）
- ●★生物由来農薬
- ●水田還元状態の把握による適正管理
- ●★省力拡散性製剤
- ●薄肉化農業用フィルム
- ★適正包装段ボール（Eco Smart Packaging）

その他
- ★鮮度保持資材

これらの取り組みは、各産地が抱える課題に応じて選択できることが大きな特徴です。資材価格高騰への対応、労働力不足への対応、環境負荷低減への対応など、産地によって優先すべき課題は異なります。グリーンメニューは全国一律の取り組みを求めるものではなく、地域の実情や品目特性に応じて活用できる実践メニューとして位置付けられています。成果や課題を共有しながら、各ＪＡが導入しやすい技術から取り組むことで、環境調和型農業を無理なく現場へ定着させていくことが期待されています。例えば、被覆肥料プラスチック流出防止への取り組みは、海洋プラスチック問題への対応として注目されており、肥料成分が溶け出した後、ほ場内に残る被膜殻の適切な回収・管理を進めることで、農業生産由来のプラスチック排出量を減らすことに繋がります。また、天敵農薬資材の活用やＩＰＭ防除体系の導入は、化学農薬による防除だけに依存しない防除体系の探索と構築へ向かう活動となり、生産現場の実情に応じた持続可能な病害虫防除を実現するものとなります。さらに、Ｚ－ＧＩＳ・ザルビオ等の営農支援システムを活用した『営農データの見える化』は、生育状況や栽培履歴を客観的なデータとして把握できるため、栽培技術の改善や産地全体の生産性向上にもつながることが期待されています。このようにグリーンメニューは、環境負荷の低減だけでなく、生産性向上や経営改善にも結び付く実践的な取り組みとして位置付けられています。

3.「よりよい営農活動」は『ＧＡＰをする』ための取り組み

【図３】『よりよい営農活動』の定義および考え方

○「よりよい営農活動」～GAP手法（５分野：食品安全、労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理）を活用した営農の実践～（以下「よりよい営農活動」）は、農業者がGAPの手法や考え方を自経営に取り入れ、リスク管理（法令遵守・コンプライアンスを含む）や経営改善を目的として取り組むことを指し、第三者認証GAPの取得を目的としない。

ＪＡグループとして整理した用語	内　容	特　長
「よりよい営農活動」	農業者がGAPの手法等を通じて営農を行うこと。 認証取得の有無は関係ない。	さまざまなリスクから農業者と農産物を守り、農業経営の改善や効率化につなげる。
GAP認証をとる	販路拡大等に向け、個々の判断において第三者認証GAPの認証を取得すること。 (GLOBALG.A.P、ASIAGAP・JGAP)	上記に加え、取引先に対する信頼性向上や販売力強化にも有効。

ＪＡグループ愛媛が推進する「よりよい営農活動」とは、『ＧＡＰ手法を活用した営農の実践』です。言い換えれば、「よりよい営農活動＝ＧＡＰをすること」です。ＧＡＰ認証取得を目的とした運動ではありません。農業者が、食品安全・環境保全・労働安全・人権保護・農場経営管理というＧＡＰの５分野を日々の営農の中で実践し、自らの経営改善やリスク低減につなげる活動であり、営農指導場面でもそれらを意識した事業展開を目指すものです。

例えば、農薬使用記録を付ける・土壌分析に基づいて施肥を行う・廃プラスチックを適切に処理する・防除履歴を管理する・作業事故防止のため保護具を着用するといった取り組みも、すべて「よりよい営農活動」の実践です。

『ＧＡＰをする』の特徴は、経験や勘だけに頼らない営農管理を実現できることにあります。農業経営のなかで確認すべき事項を整理し、点検項目として『見える化』することで、生産者自身が経営や栽培管理を客観的に振り返ることができます。また、営農指導員にとってもＧＡＰの５分野について理解度を深めることによって指導内容を共通化・標準化できるというメリットがあります。経験の浅い若手営農指導員であっても、関係法令やＧＡＰの管理基準を根拠として説明できるため、『担当者によって指導内容が異なる』といった状況を減らすことができます。また、ベテラン生産者に対しても個人の経験や考え方を優先するのではなく、『なぜその管理が必要なのか』『なぜその改善が求められるの

か』を法的根拠やリスク管理の観点から説明できるようになることで、生産者との信頼関係の構築や営農指導力の向上にもつながっています。正しい知識と法的な根拠を持って生産者へ指導するための手法として食糧・園芸・果樹の各指導員会においても研修会等を実施し、『よりよい営農活動』を実践していくことで、ＪＡグループの営農指導事業の更なる強化に繋がるような体制づくりを進めています。



５月19日に実施した「よりよい営農活動研修会」

4.『環境調和型農業の実践』と『よりよい営農活動』は車の両輪

環境調和型農業を実践するための具体的な技術や手法が「グリーンメニュー」であり、その取り組みを継続・改善していくための手法が「よりよい営農活動」です。

『環境調和型農業』と『よりよい営農活動』の関係は環境調和型農業が「何を実践するか」であり、よりよい営農活動が「どのように実践し、継続するか」です。

環境調和型農業では、化学肥料削減・ＩＰＭ防除・天敵利用・プラスチック削減といった具体的な取り組みを進めます。一方で、よりよい営農活動では、記録する・点検する・改善する・管理するというＧＡＰの考え方を活用し、その取り組みを継続的に実践していきます。

グループの代表者による発表



グループワークの様子

つまり、環境調和型農業が「目指す姿」、よりよい営農活動が「実現するための手法」という関係にあります。環境調和型農業の取り組みは、新しい技術を導入すること自体が

【図４】「よりよい営農活動」の取り組みイメージ

分　野	取り組み事項のイメージ
食品安全	農薬の使用記録を作成・保全していますか 異物混入の防止対策を実施していますか
環境保全	廃棄物を適切に処理していますか 排水は適切に処理していますか
労働安全	安全に作業を行うための服装や保護具の着用・管理を実施していますか 事故対応のため、清潔な水・救急箱の用意はしていますか
人権保護	家族間の十分な話し合いに基づき経営をおこなっていますか 外国人雇用がある場合、適切な対応を行うための環境整備等を実施していますか
農場経営管理	生産・出荷記録をきちんと保存していますか 生産計画を策定し、実績を評価し、必要に応じて次の計画に反映していますか

（国際水準ＧＡＰガイドラインにおける取り組み事項から抜粋・編集）

目的ではありません。導入した技術の効果を確認し、課題を整理しながら改善を繰り返していくことが重要です。環境調和型農業が「実践する技術」であるならば、よりよい営農活動は「取り組みを継続・改善する仕組み」であるといえます。両者を組み合わせることで、環境負荷低減と経営改善の両立を図りながら、持続可能な産地づくりへとつなげることができます。



5. 段階的な普及とＪＡの役割

環境調和型農業は、「無理のない範囲から段階的に取り組む」ことが基本です。

初期段階では、

- 土壌診断に基づく施肥改善（適正施肥に向けた圃場状態の把握）
- 病害虫防除に関する見直し（防除体系を見直し過剰な防除を回避）
- 廃プラ適正処理（農業場面から排出される廃プラ削減と適正処理）

など、取り組みやすい内容から着実に実践し、生産者・消費者双方の理解醸成を図ることが重要とされています。また、エコえひめ農産物の取り組み継続・地域ごとの課題分析・実証試験や技術導入を通じて、産地全体として取り組みを深化させていきます。

6. 営農支援課としての推進方向

これらの方針を踏まえ、ＪＡ全農えひめ営農畜産振興部営農支援課では、県内ＪＡおよび県行政と連携しながら取り組みを進めていきます。特に、地域ごとの営農条件や課題に即した形で「経営改善につながる環境対応」として提案していくことを目指していきます。

また、環境調和型農業やよりよい営農活動の推進に当たっては、生産者への技術提案だけでなく、営農指導員自身の知識向上や指導力強化も重要となります。今後も各指導員会活動における研修や講習会のなかで習熟度の向上を図り、各ＪＡ営農指導員が共通認識のもとで取り組んでいける体制づくりを進めるとともに、県内で蓄積された事例や課題を共有しながら、愛媛県全体の営農指導機能の向上にも取り組んでいきます。



ＪＡ愛媛園芸指導員会（品目担当者会）での現地研修



よりよい営農活動

GAP 手法を活用した営農の実践

具体的な生産者にとっての効果

【取り組むメリット】

農場運営におけるリスク管理の徹底により
生産物の信頼性向上および経営改善につながる

- 営農活動の課題が可視化されるため、改善点が明確になる
- 業務プロセスや経営資源が明確になるため、事業承継にも有効
- 部会等で取り組むことで、農産物の品質を標準化できる

【取り組まないリスク】

様々な営農リスクが発生し、
産地を脅かす事態につながる懸念がある。

- 事故等で個人や部会の責任が問われた際、適切に対応できない
- 認証取得を伴わない場合でも、リスク対応は既に求められている
- 輸入品との競争に劣後する

具体的な JA・連合会にとっての効果

取り組むメリット

**生産者に出向き信頼関係を強化する
ツールになり、JA の総合力発揮につながる。**

- 部会実態が具体的に認識できる
- 生産者の課題・ニーズを把握することで事業伸長に活用できる
- 生産現場に入り込めるため生産者との関係強化のツールになる
- 事業改善を通じて組合員の満足度向上に役立つ
- 営農指導員のスキルアップになり、営農指導事業の改善にも有効
- 総合力発揮の土台になる

取り組まないリスク

**営農指導事業の質の低下が起こり、
JA の各種事業の継続性が危ぶまれる。**

- 営農指導の質が低下し、組合員の JA 離れや事業の停滞に繋がる
- 生産者ニーズが適切に認識できず、組織基盤・事業基盤が弱体化する
- 制度的な要請に対応できず補助事業を受けられなくなる懸念がある
- 実需の要請があった場合に対応が遅れると取引のチャンスロスが生ずる
- 総合事業連携の機会を失う

よりよい営農活動が目指すもの

よりよい営農活動とは、GAP の考え方を活用して、産地の課題を論理的に認識し、人材育成や事業改革、環境対策、DX 化などに幅広く対応するための取り組みとも言えるものです。

個々の経営体として

- 事故の防止
- 経営の安定

地域・組織として

- 営農指導機能の強化
- 総合事業機能の強化

共通

- 販売力の強化
- 環境調和型農業・SDGｓの基礎
- 持続的な農業経営・産地形成

JAグループ『よりよい営農活動』支援チーム

THE ねっとわーく

JA全農経営管理委員会

JA全農新会長に吉見一弥副会長が就任！



ＪＡ全農（全国農業協同組合連合会）は、東京大手町のＪＡ全農本所にて記者説明会を行い、新会長に吉見一弥副会長（ＪＡえひめ南代表理事組合長・ＪＡ全農えひめ運営委員会会長）が就任したと発表しました。任期は3年です。

会長を務めた折原敬一氏（山形県本部運営委員会会長）の任期満了に伴う人事で、7月30日の通常総代会後の経営管理委員会で選任されました。

会見した吉見一弥新会長はＪＡ宇和島（現ＪＡえひめ南）での農協事業の全般に携わった経験を挙げ、「私の原点は現場の仕事です。組合員の営農と生活を守るため、頼りになる組織でありたいと思っています」と就任の意気込みを力強く語りました。

また、「生産者の減少・高齢化」、「生産基盤の弱体化」、「気候や国際競争の変化」など様々な課題に直面する中、

現場直結の〝なくてはならない全農〟であり続けるために、

① 組合員の所得と経営の安定を支える
② 安全・安心な農畜産物の安定供給
③ 地域社会の基盤としての役割を果たす

この3点が全農の大きな使命だと語りました。

さらに7月28日に発生した熊本地震への対応については「この度の熊本地震の報に接し、心よりお見舞い申し上げます。農業の被害については現在、詳細の把握に努めています。被災地に対して、必要な対策を迅速かつ的確に実施するとともに、一日も早い復旧に向けて全力で支援をしていきます」と語りました。

ブラジルなど南米各国が加盟する関税同盟と日本の経済連携協定（ＥＰＡ）の交渉については、「メルコスール諸国は世界有数の生産・輸出国であり、国際情勢を踏まえた調達先の多様化は理解しますが、農業分野の安易な市場開放は、安価な農畜産物が大量に流入することが懸念され、日本農業にとって大変厳しい状況になります。また、食料安全保障の観点から国益に反するもので到底容認は出来ません。毅然とした対応を日本政府に強く要請していきたいと思っています」と語りました。

県内ＪＡ・ＪＡ全農えひめからの会長就任は2020年から3年間務めた菅野幸雄氏以来、2人目となります。

吉見 一弥（よしみ・かずや） 66歳
宇和島市出身

愛媛県立農業大学校卒
1980年ＪＡ宇和島入組
2023年1月ＪＡえひめ南代表理事組合長
2023年6月ＪＡ全農えひめ運営委員会会長
2023年7月ＪＡ全農経営管理委員会副会長

会員代表者会を開き令和7年度事業を報告

管理部

JA全農えひめは、6月29日、松山市のJA愛媛で会員代表者会を開き、令和7年度の事業報告を行いました。

■令和7年度事業報告

県本部の取扱高(総供給販売高)は、全体で計画比104%の79、744百万円となりました。

各部別の概況は次の通りです。

【営農畜産振興部】素牛の単価高により、計画を上回りました。

【園芸農産部】米の単価高や温州みかん、中晩柑類等の取扱増加により、計画を達成しました。

【生産資材部】病害虫の少発生等による農薬の取扱減少や園芸資材の取扱減少により計画を下回りました。

【生活部】選果貯蔵施設、畜産施設等の取扱増加や燃料の単価高により計画を上回りました。

また、同日に各連合会表彰式が行われました。

JA全農えひめ関係の受賞者は下表のとおりです（敬称略）。

【表1】 JA全農えひめ
令和7年度取扱高実績(事業分量) (単位：百万円)

部門	計画	実績
営農畜産振興部	629	956
園芸農産部	45,983	47,894
生産資材部	12,660	12,464
生活部	17,755	18,430
合計	77,027	79,744

【表2】 JA全農えひめグループ会社
令和7年度取扱高実績 (単位：百万円)

会社名	計画	実績
㈱えひめ飲料	17,538	19,356
JAえひめアイパックス㈱	3,520	3,479
JAえひめフレッシュフーズ㈱	4,200	4,850
㈱ひめライス	3,972	6,048
JAえひめエネルギー㈱	3,032	2,845
㈱えひめフーズ	752	639
JAえひめ物流㈱	6,245	6,627
合計	39,260	43,844

【表1】【表2】百万円未満は四捨五入のため合計値に差異が生じます

【表3】令和7年度　全農愛媛県本部表彰

【JA表彰】

うま農業協同組合	周桑農業協同組合
越智今治農業協同組合	松山市農業協同組合
えひめ中央農業協同組合	西宇和農業協同組合
東宇和農業協同組合	えひめ南農業協同組合

【特別功労表彰】 ※カッコ内はJA名

二宮　正憲（おちいまばり）	清家　伯弘（えひめ中央）
中塚　浩二（愛媛たいき）	

【優良JA職員表彰】 ※カッコ内はJA名

長谷川　稔（えひめ未来）	林　健介（おちいまばり）
安永　雅雄（松山市）	戒能　真也（えひめ中央）
太田　良夫（えひめ中央）	安岡　和孝（愛媛たいき）
二宮　和也（愛媛たいき）	泉田　真成（にしうわ）
大森　堅司（ひがしうわ）	

グループ会社　常勤役員の体制について

ＪＡ全農えひめのグループ会社７社は、６月18日に株主総会・取締役会を開き、下記のとおり新役員体制を決めました。

㈱えひめ飲料

□代表取締役社長
芝　　亮介

□代表取締役専務
氏原　教次

□常務取締役
松浦　勇人

□常勤監査役
塩﨑　洋章

ＪＡえひめアイパックス㈱

□代表取締役社長
井上　　寛

□専務取締役
嶋田　浩志

□常務取締役
猪股　　徹

㈱ひめライス

□代表取締役社長
武田　　司

□常務取締役
中山　祐二

ＪＡえひめフレッシュフーズ㈱

□代表取締役社長
矢野　貴之

□常務取締役
堀岡　　茂

㈱えひめフーズ

□代表取締役社長
長山　峰久

ＪＡえひめエネルギー㈱

□代表取締役社長
得能　祐治

□常務取締役
菅　　文郎

ＪＡえひめ物流㈱

□代表取締役社長
中矢　　琢

□常務取締役
矢野　喜好

※ＪＡ全農えひめグループ会社の令和８年度役員体制（非常勤含む）については、10－11月号で掲載予定です。

令和８年度新規採用職員紹介

今年度、７名の仲間が新たに加わりました♪



後列左から、坂井、中島、清水、山内
前列左から、相田、橋本、矢野

JA全農えひめに新たな風を吹き込む フレッシュな７名を紹介します♪

所属部署
名　前
①趣味・特技
②好きな食べ物
③今後の抱負
の順で聞いてみました。



園芸農産部　米穀課
坂井（さかい）　陸智（だいち）



①カフェ巡り
②にじのきらめき

③まだまだ慣れないことも多いので、一つずつ着実にこなしていきます！

総合エネルギー部 中四国エネルギー生活事業所 愛媛エネルギー推進課
相田（そうだ）　有希（ゆうき）



①旅行
②チョコレート、いちご

③仕事を通して関わる方々に信頼される職員となれるように頑張ります。

生産資材部　肥料農薬課
橋本（はしもと）　莉歩（りほ）



①映画鑑賞、旅行
②ハンバーグ、パン

③現場での経験を大切にしながら、農薬や病害虫に関する知識をさらに深め、信頼される職員を目指します！

くらし支援部 中四国エネルギー生活事業所 愛媛生活推進課
山内（やまうち）　凛人（りんと）



①映画・旅行
②メロン、お米

③いろいろな方と接し説明する機会があるので、信頼されるためにも商品知識についてしっかり説明できるよう理解していきたい。

生産資材部　段ボール工場販売課
清水（しみず）　湧貴（ゆうき）



①柔道、音楽鑑賞、旅行
②海鮮、アスパラガス、パスタ

③包装資材の知識を身につけ、周りに信頼される職員を目指します！

園芸農産部　園芸販売課
中島（なかじま）　和亮（かずあき）



①旅行、野球
②まぜそば、くり、ゆず、キウイ

③関わる人たちと積極的に会話をして、自分で考えて仕事ができるようになります。

園芸農産部　直販課
矢野（やの）　勇翔（ゆうと）



①野球・ボクシング・料理
②鶏そぼろ丼・トマト

③主体的に業務に取り組み、直販課の戦力になれるよう日々学んでいき、成長し続けたいです。

Hometown Essay

ふるさとESSAY

Vol.321

四国遍路のお寺から③
本当に思っていることを正直に話す

白川 密成
MISSEI SHIRAKAWA

前回は、私の著作について書かせて頂きました。今回はそれ以外の取り組みについても、書かせて頂こうと思います。葬儀や法事、行事、お遍路さんを迎えること、といった住職としての仕事と共に「本を書く」ということをしていると、「お話を聞かせてほしい」という依頼を頂くようになりました。

今まで、学校の生徒や保護者、先生方、看護士の皆さん、市会議員の皆さん、カルチャーセンター、ヨーガの指導者の会、そして僧侶やその奥様の会など、様々な集まりに呼んで頂き、全国各地でお話をさせて頂きました。「自分達がやっていることに興味を持って頂く」ということの大切さを感じると共に、「誰もがわかる言葉で丁寧に話す」ということの難しさも感じる、貴重な経験をさせてもらいました。

またグラフィックデザイナーにお寺の新しいロゴマークをデザインして頂き、そのグッズを作ってみたり、尼僧である妻のアイデアと企画で、地元の農家の方々に境内で農作物を売って頂き、お寺からは地元産の麦茶をお接待する取り組みをしたこともありました。新しいお寺の建物である「演仏堂」では、子供達を集めてパステルアートのワークショップをしたり、大学の先生方による研究発表会を行いました。

私の個人的な活動の中では、NHKテレビのローカルニュースで月一回の「人生相談」コーナーを二年間担当させて頂きました。民放のバラエティ番

■プロフィール■
1977年（昭和52年）、今治市生まれ。高野山大学密教学科卒業。今治市玉川町の四国八十八ヶ所霊場・第五十七番札所・栄福寺（高野山真言宗）住職。
住職となった24歳からコピーライター・糸井重里氏代表の「ほぼ日刊イトイ新聞」にコラム「坊さん。」を231回、7年間連載。『ボクは坊さん。』（ミシマ社）、『マイ遍路』（新潮新書）、『みんなの密教』（NHK出版）等7冊を出版し、仏教をわかりやすく紹介し、身近に感じられる内容になっている。「仏教、空海、四国遍路をわかる言葉で伝える」をテーマに活動し、各種メディアで紹介されている。『ボクは坊さん。』は、2015年映画化。全国100館以上で上映され、アメリカ「ヒューストン映画祭」、「シカゴ・アジアン・ポップシネマ」等の映画祭で受賞。イタリア、韓国、台湾でも上映。
岡田武史氏（FC今治会長・元サッカー日本代表監督）、永田和宏氏（細胞生物学者・JT生命誌研究館館長）、中沢新一氏（人類学者）、山折哲雄氏（宗教学者）等と対談している。



▲遠足で訪れた小学生に説明する様子



▲栄福寺・本堂での読経。近藤信也氏撮影（西条市・山山写真館）

組に出演させて頂いた時は、元レッドソックスの上原浩治さんやプリンセス天功さんと共演して、「お坊さん」という仕事について紹介を試みました。また他のテレビ番組では、日本を代表する宗教学者のひとりである山折哲雄さんと四国遍路や空海の現代性について対談しました。

そういった経験を通じて強く感じるのは、自分達にとってはありふれたことであっても、発表の場所や伝える相手によっては、とても新鮮に感じてくださるということでした。だからこそ、工夫を重ねて「わかる言葉」で語るという親切心がとても大事だと思っています。

そして、じつはとても難しいことだと感じるのですが、時には「本当に思っていることを正直に話す」ということが、大切であるということです。私達は、人に何かを伝える時に、自分を大きく見せたり、相手に合わせすぎることが多々あります。もちろんそれは、自然なことでもあるのですが、度を過ぎると「ただ気を使い合っているだけ」というもったいない時間が続いてしまうこともあります。そこを一歩踏み込んで、「じつは、わかりません」という、少し恥ずかしくなるような気持ちも含めて、「正直に話す」。このことを、いつも心に留めています。もちろん、今でも上手くできないことも多いですけれど。

私の師僧（師匠の僧侶）が、いつも言っていたことがあります。それは、「私達は、宝物を持っているのに、それを忘れていませんか？」ということです。農業は門外漢である私から見ても、宝の山ではないでしょうか。四季折々の伝統ある日本で培ってきた農業の知恵には、無限の可能性があるでしょう。そこに日本や世界のテクノロジーが加わった時には、新しい展開があるでしょうし、古の伝統的技術には、現代だからこそ驚くような叡智が満載されているように思います。

JA愛媛野菜生産者組織協議会　第51回通常総会

愛媛野菜の生産基盤強化と持続性のある生産体制の構築に取り組む！

愛媛県内10JA68部会(29品目)で組織するJA愛媛野菜生産者組織協議会は、6月30日、ウェルピア伊予で第51回通常総会を開き、7年度事業報告、8年度事業計画などが承認されました。

7年度は、生産面では生産基盤の強化、栽培技術の高位平準化に向けた取り組み、生産改善共進会の開催による生産技術の向上と意欲の啓発、販売面ではえひめ野菜フェアを中心とした愛媛野菜のPR活動、マスメディアを活用した産地PR活動などに取り組みました。

8年度は、「マーケットニーズを踏まえた生産振興支援対策の取り組みにより、愛媛野菜の生産基盤強化と持続性のある生産体制の構築に取り組む」「愛媛野菜の消費拡大およびファンづくりに向け、販売協力店におけるフェアの実施、対面型消費宣伝活動の拡充および関係各所と連携した産地PR活動に取り組む」の2点を事業方針とし、引き続き生産面・販売面両方の活動を充実させる事としました。

また、作家・拓殖大学北海道短期大学客員教授の森久美子氏による「食と農を結ぶ～心を育む食農教育～」の講演を行いました。

総会では、愛媛県農産園芸功労知事表彰、共進会表彰状授与、感謝状贈呈、営農指導員表彰ならびに表彰状授与が行われました。

入賞者は次の通りです(敬称略・かっこ内はJA名)。

◆愛媛県農産園芸功労知事表彰▽青野義則(周桑)、越智栄一(えひめ中央)、相原啓司(松山市)

◆野菜生産改善共進会入賞者「レタス」▽県知事賞＝浮穴佳温(松山市)▽全農愛媛県本部長賞＝重川鐵(松山市)▽協議会会長賞＝酒井優行(えひめ中央)、兵頭浩(松山市)、赤星文人(同)「冬春ほうれんそう」▽県知事賞＝白石道勝(えひめ未来)▽全農愛媛県本部長賞＝西原隆将(えひめ未来)、▽協議会会長賞＝細川建貴(同)、川下謙次(同)、松本武志(同)「ブロッコリー」▽県知事賞＝森口英樹(えひめ南)▽全農愛媛県本部長賞＝山本昇(同)▽協議会会長賞＝埜下吉和(同)、木村哲雄(周桑)「西瓜」▽県知事賞＝西山邦夫(愛媛たいき)▽全農愛媛県本部長賞＝藤田秀美(同)▽協議会会長賞＝井上憲一(同)、福増範雄(えひめ中央)、西山敬三(愛媛たいき)◆全農愛媛県本部長50周年記念感謝状贈呈者▽野菜振興優秀農家＝西山清一(松山市)、高橋敏夫(えひめ中央)▽優秀部会＝JA松山市とまと部会▽協力市場＝丸温松山中央青果㈱、松山青果㈱、大果大阪青果㈱、神戸中央青果㈱◆生産振興支援要領営農指導員表彰▽最優秀賞＝合田光(おちいまばり)▽優秀賞＝玉井秀光(えひめ中央)、津田真吾(愛媛たいき)



愛媛県農産園芸功労知事表彰者の青野義則さん



野菜生産改善共進会県知事賞「ブロッコリー」の森口英樹さん

愛媛県くり研究同志会第60回総会

基本管理を徹底し、気象災害に強い樹づくり、土づくりに取り組む！

愛媛県くり研究同志会は、6月2日、JAひがしうわ本所で、第60回総会を開催しました。

開催にあたり、三ツ井会長が「担い手不足、異常気象、農業生産資材の価格高騰など、農家にとって苦しい時ではありますが、基本管理を徹底して高品質なくり生産を持続させていきましょう」と挨拶しました。総会では、第1号議案「令和7年度事業報告および収支決算について」、第2号議案「令和8年度事業計画案および収支予算案について」、第3号議案「令和8年度会費・賦課金の請求案について」の全議案が承認されました。


挨拶する三ツ井会長

総会後は、㈱城川ファクトリーの村田博史氏による、「現場の泥臭さ×テクノロジーで切り拓く、愛媛の栗産地再生への挑戦」と題して講演を行いました。

令和8年度えひめ愛フード推進機構総会

「かんきつ王国えひめ」の一層のPRを！

愛媛県など行政団体・農林水産団体や商工・流通団体などで組織するえひめ愛フード推進機構（会長：中村時広愛媛県知事）の令和8年度総会が、6月9日松山市で開かれ、令和7年度事業報告・収支決算報告、令和8年度事業計画・収支予算案について決議されました。

同機構が関与した令和7年度の県産かんきつの輸出実績は約248トン（前年比約37％増）、輸出額は約1億5、428万円（約27％増）でともに大幅に伸び、過去最高を更新したことを発表しました。また、令和8年度事業計画では、「かんきつ王国えひめ」の一層のPRなど、「愛媛ブランドづくり」の深化に努めるほか、取り引きが将来に向けて継続的に維持・拡大出来るような「売れる仕組みづくり」に取り組み、実需の創出を図ることなどが発表されました。



第52回乾椎茸品評会

髙橋征敏さんが、2年連続で最優秀賞！

愛媛県椎茸同志会主催の第52回乾椎茸品評会が、5月26日、大洲市で開かれ、髙橋征敏さん（JAひがしうわ）が2年連続で最優秀賞（全農会長賞）を受賞しました。

品評会には、春子17点が出品され、入賞7点他が、6月4日の「第59回全農乾椎茸品評会」に出品されました。

その他の主な入賞者は次の皆さん（敬称略・かっこ内はJA名）。

▽優秀賞＝成髙王洋（愛媛たいき）、矢野欣一（同）▽1等賞＝山首憲一（同）▽2等賞＝岡中勝彦（ひがしうわ）▽3等賞＝松本和夫（愛媛たいき）▽努力賞＝河内逸一（同）

なお、6月4日、全農椎茸事業所入札場で開かれた全農椎茸品評会において、愛媛県より2名が入賞しました。入賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJA名）。

▽全農会長賞（大葉中肉）＝成髙王洋（愛媛たいき）、（大葉厚肉）＝髙橋征敏（ひがしうわ）



最優秀賞を受賞した髙橋征敏さん



第47回ＪＡ愛媛養豚経営者協議会総会

安心して消費者に提供出来る豚肉の生産流通に努める！

ＪＡ愛媛養豚経営者協議会は、６月26日、松山市のＪＡ愛媛で第47回総会を開催、令和８年度事業計画などが承認されました。

令和８年度は、生産性向上を効果的に進めるため、「ふれ愛・媛ポーク」認定農場個別検討会を年２回実施。「系統養豚生産性向上プロジェクト班」を設置し、生産性向上対策や肉質向上対策等の諸課題について調査・研究するとともに若手従業員の生産技術向上を目的とした研修会等を実施し、競争力強化と農家経営の安定化を図ります。疾病発生を防止するため防疫管理を徹底するとともに、全農クリニック事業等を活用した個別衛生対策の実施などに努めます。

また、総会に先立ち、優秀会員を表彰しました。受賞農場は次の通りです（カッコ内はＪＡ・会社名）。

▽優秀会員＝（有）菊間仙高牧場（おちいまばり）、（合同）酒井ピッグファーム（えひめ南）、伊予スワイガーデン（ＪＡ全農くみあい飼料㈱）



「フレッシュ市部会」第29回総会

「近くて便利な地域コミュニティ」として「地産地消」に取り組む！

６月16日、「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」の直売所出荷者で組織する「フレッシュ市部会」が第29回総会を開きました。

総会では、令和７年度の事業活動報告・会計報告を行いました。また、令和８年度事業活動計画・予算計画を発表し、提案した全議案が承認されました。

令和８年度活動方針では、魅力ある商品づくり、豊富な品ぞろえにより消費者に支持される売り場づくりを目指すほか、安全・安心な商品提供を行うため、栽培履歴記帳の徹底、食品表示法に基づく適正表示の徹底、製造・生産現場の相互点検等を実施し、品質管理に努めることなどを確認しました。

「近くて便利な地域コミュニティ」として、「地産地消」に取り組み、地域貢献に寄与する魅力ある直売所を今後も目指していきます。



令和８年度愛媛県肉牛生産者協議会総会

安心して消費者に提供出来る牛肉の生産・流通に努める！

愛媛県肉牛生産者協議会は、６月30日、松山市のＪＡ愛媛別館で令和８年度総会を開き、令和８年度事業計画を決めました。

令和８年度事業計画では、

①後継者育成による県内肉牛生産基盤の維持と飼養管理技術の向上への取り組み。

②防疫・衛生管理の徹底を図り、牛伝染性リンパ腫の撲滅に向けて取り組みを強化するとともに、生産履歴の明確化により、安全で安心な伊予牛「絹の味」の生産に取り組む。

③環境対策を実施し、地域社会と調和のとれた畜産経営に取り組む。

④消費者に信頼される産地づくりに取り組むとともに、伊予牛「絹の味」を広くアピールし販路拡大・今後のブランド戦略に向け協議を進める。

⑤県内の繁殖農家・肉牛農家の相互連携と生産意欲の高揚を図るため、先進地研修会を開催する。

右記重点方針が決議されました。

また、役員改選により、新会長に池田一成氏が就任いたしました。

なお、総会に先立ち、優良生産者を表彰しました。受賞者は次の通りです（敬称略・カッコ内はＪＡ名）。▽優良生産者＝小西龍次（愛媛たいき）、井上治宣（ひがしうわ）



佐々木邦満前会長あいさつ

第63回ＪＡ愛媛農機技術指導士連絡協議会総会

「なくてはならないＪＡ農機」であるために。


メーカーの説明に聞き入る指導士

ＪＡ愛媛農業機械技術指導士連絡協議会は、７月３日、ＪＡえひめ中央東温営農支援センターで第63回通常総会を開催し、令和８年度の取り組み方針などを決定しました。

令和８年度は、「なくてはならないＪＡ農機」として「出向く営農」をさらに強化し、ＪＡ農機のシェア拡大と事業競争力の強化。新品・中古・修理整備・部品４事業分野の体質強化と経営改善。指導士相互の情報交換と研修活動の活発化。高齢化・大型化が進むなか、農機の安全使用について継続的な啓蒙活動を展開することなどを決議しました。

総会後には、11メーカーから大型機械（トラクター・耕うん機・田植機・共同購入コンバイン）を含め、農産物低温貯蔵庫さいこGBR（静岡製機㈱）、新バッテリー刈払機（㈱丸山製作所）やドローン導入の取り組みについて（愛媛農機事務所）等の説明を受け、新しい製品知識の習得に努めました。

なお、総会に先立ち、農機の修理・推進において優秀な成績を修めた会員の表彰も行われました。主な受賞者は次の皆さんです（敬称略・カッコ内はＪＡ名・会社名）。

【一般表彰】仲渡鯉貴也（周桑）、野島英揮（同）、玉井邦英（おちいまばり）、岸田龍次（えひめ中央）、坂本裕史（同）、清家学（えひめ南）、岩田和徳（同）

【団体表彰】陸地部農機センター（おちいまばり）

ＪＡえひめ中央の食育活動に協力

小野小学校で「松山長なす」の授業を実施


松山長なすの収穫


授業風景

７月８日、９日の２日間、ＪＡえひめ中央とＪＡ全農えひめは、小野小学校４年生４クラスで「松山長なす」について食育授業を実施しました。この授業は、産地の小学校に「松山長なす」のことを知ってもらい、地産地消の大切さを子供たちに伝えるために開催しています。

まずは、園地にて松山長なすの収穫体験。生産者からなすの収穫の仕方について説明を聞いた児童たちは、２人１組で収穫をしました。「長いのがいっぱいあった」「どれをとるかまよった」「トゲがあるのがびっくりしたけど、楽しかった」など、感想を述べていました。

その後教室に戻り、ＪＡえひめ中央担当者、ＪＡ全農えひめ担当者より、愛媛の野菜について・なすの種類・松山長なすの歴史、特徴などについて学んだあと、収穫した松山長なすの袋詰め体験もしました。

後日、「なすを収穫させてくれて、ありがとうございました。なすはにがてだったけど、てんぷらにすると、とてもおいしかったです。ふくろに入れるのも楽しかったです。ありがとうございました。」など、授業を受けた児童全員１４８名から嬉しいお礼の言葉をいただきました。

第27回ＪＡ愛媛米麦生産者組織協議会通常総会

えひめ米、麦類のさらなる品質向上と安定生産を！



ＪＡ愛媛米麦生産者組織協議会は、７月14日、松山市のＪＡ愛媛で、「第27回ＪＡ愛媛米麦生産者組織協議会通常総会」を開きました。

総会には、会員14人の他、県やＪＡ等関係者約40人が出席し、令和７年度事業報告、令和８年度事業計画・予算計画等を審議し、承認されました。

令和７年産米は、愛媛県米麦振興協会などの関係機関と連携し、「売れる米づくり」に向けた取り組み、「ひめの凛栽培講習会」、「しずく媛栽培講習会」等を開催し、品質向上対策を進めてきました。また、品質面では、「にこまる」が「特Ａ」の評価を獲得し、４年連続という非常に優れた結果となりました。

令和７年産麦は、三麦種合計の作付面積が2,062haと前年を下回りましたが、収穫量は6,871トン（昨年5,330トン）と大きく上回りました。はだか麦の平均反収も328kg／10a（昨年229kg）と前年を大きく上回り、39年連続生産量日本一（5,700トン）となりました。

JAグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会

労働力支援会議を開催

7月6日、松山市のJA愛媛でJAグループ愛媛担い手サポートセンターが労働力支援会議を開催し、県内JA営農指導担当者など関係者約30名が参加しました。

会議では、次の事項が説明・共有されました。

①全国のTAC情勢・労働力支援の取り組み
②労働力募集アプリ（タイミー）の活用
③農福連携実証結果の報告
④農業分野における外国人労働者の受け入れ
⑤令和8年度TAC担い手支援要領
⑥愛媛県からの情報提供
⑦JAグループ愛媛担い手サポートセンターの取り組み

②で説明があった㈱タイミーについては、生産現場の人手不足の解消を目的にJA全農えひめと業務提携を締結しています。タイミーをきっかけとしてJA施設（選果場等）で働きながら、農業への関心度を高め、移住を決意した人などの事例も紹介され、各JAが組合員に積極的に活用することを推奨しました。③の農福連携とは、農業と福祉が協力し、障害者や高齢者などが農業分野で活躍できる場を創出する取り組みで、JA全農えひめ営農支援課担当者より、枝豆・白ねぎの荷造り実証のなかでの検証結果として、各作業の難易度等を数値化し、作業に従事してもらうことで障害者の方々のポテンシャルを最大限に発揮してもらうことが可能となり、相互の理解も深まることで、作業全体にも良い影響を与えたことなどが報告されました。

また、各JAが組合員からの要望を受けて実施している請負作業等の状況や今後の展開方策等についても情報共有し、労働力支援に関するJAグループ全体の課題等について協議を実施しました。


就農相談会・就農体験ツアーの説明をするJA全農えひめ担当者

令和8年度JA産地振興・担い手支援実践愛媛県大会

最優秀賞に、JAおちいまばりの渡部帆乃香さん

JA全農えひめは、7月17日、令和8年度「JA産地振興・担い手支援実践愛媛県大会」を松山市のJAビルで開催しました。県内JAの営農指導員・TAC関係者ら約60人が参加し、7JA7名の担当者が1人15分で活動事例を発表しました。

最優秀賞は、JAおちいまばり・営農指導課の渡部帆乃香さんが受賞。「地域農業を未来へつなぐ挑戦～観光農園導入による担い手確保と地域活性化～」と題し、管内の農事組合法人に対して、①新規栽培品目の検討、②最適な助成事業の検討・申請、③観光農園の運営等の取り組みを発表し、当該法人の課題であった『米麦中心の経営』のため、冬季作業がなく年間雇用が困難であったことに対して「いちごのハウス高設栽培」を提案。また、「さいさいきて屋」と連携し観光農園としても運営していく新たな経営モデルの実施により、社員・パート雇用の創出、地域内外から6、200人超の来園を実現し、法人経営の安定化とJA自体の存在意義や牽引力を示したことなどが評価されました。最優秀賞のJAおちいまばりの渡部さんについては、四国ブロックの審査会に進む予定です。

優秀賞は、JA周桑・生産指導課の森時竜二さんとJAえひめ中央・果樹課の伊藤聡さんの2名が選ばれました。

今後さらなる営農指導活動のレベルアップが期待されます。


発表するJAおちいまばりの渡部さん


（左から）優秀賞の森時さん、最優秀賞の渡部さん、優秀賞の伊藤さん

伊予牛「絹の味」枝肉共励会

最優秀賞は2年連続、小池智喜さんが受賞！

JA全農ミートフーズ㈱西日本営業本部愛媛支店は、7月9日に神戸市中央卸売市場西部市場において、令和8年度最初となる伊予牛「絹の味」枝肉共励会を開催しました。

愛媛県を代表する肉牛を県外消費地の市場に出荷し、伊予牛「絹の味」の消費拡大・宣伝をするとともに、上質牛生産のための肥育技術の研鑽に努め、系統肉牛の集出荷体制の強化を図ることを目的にしています。

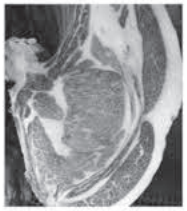
出品牛の資格は、「生産履歴」及び血統明確な愛媛県産の黒毛和種とし、24頭の出品頭数となりました。

最優秀賞は、小池智喜さん（JAおちいまばり）が2年連続で受賞し、セリ販売単価はキログラムあたり3、505円となりました。なお、優秀賞は、小池俊喜さん（同）、JA愛媛たいき畜産センター第3農場が受賞しました。



最優秀賞を受賞した小池智喜さん


優秀賞のJA愛媛たいき畜産センター第3農場の枝肉


優秀賞小池俊喜さんの枝肉

『ＪＡ全農えひめpresentsパパイズムの食イズム』FM愛媛にて好評放送中！〔毎週木曜12：05～12：15〕

ラジオとInstagramで旬の食材の魅力を発信中！





『ＪＡ全農えひめpresentsパパイズムの食イズム』とは？

ＪＡ全農えひめがお届けする新感覚の食育コンテンツ。元イタリアンシェフで大人気の料理インフルエンサー「パパイズム」さんが、愛媛県産の新鮮な農畜産物をふんだんに使った「簡単だけど本格的」な絶品レシピを提案しています。

旬の食材の魅力や料理のコツを楽しく発信するほか、公式Instagramでも日々の献立に役立つレシピ動画を配信中です。

愛媛の豊かな食の魅力を、ラジオの「声」とSNSの「動画」で余すところなく発信し、毎日の食卓に笑顔を届けています。



パパイズム　PAPAIZM
主夫料理人 / フードディレクター

愛媛県出身。19歳で料理の道に入り、イタリアンの現場・商品開発・店舗運営などに10年以上携わる。体調を機に専業主夫へ転向し、子育てと並行して「おうちで作れるプロの味」をSNSで発信。現在は、「食」に関連する企業や自治体とのレシピ開発・PR制作、教育現場での講演・授業づくりなど、家庭と現場の両視点を活かした活動を展開している。

＼さらに新展開！パパイズム農園始動！／

「パパイズムの食イズム」から、新プロジェクト『パパイズム農園』が本格始動しました！ 元イタリアンシェフであるパパイズム自らが農具を握り、愛媛の豊かな自然の中でゼロからの野菜作りに挑戦しています。

こだわりの土作りから始まり、種まき、日々の手入れ、そして待ちに待った収穫まで。農作業のリアルな様子や苦労、そして野菜がすくすくと育つ喜びをラジオ、公式Instagramで発信中です。

自ら育てた愛情たっぷりの新鮮野菜を使って、一体どんな絶品レシピが生み出されるのかも必見！農園の成長記録と、採れたて野菜を使った極上の一皿の両方が楽しめる新展開に、ぜひご期待ください。





JAEHIME_PAPAIZM

FM愛媛で放送中『パパイズムの食イズム』！ラジオの様子や野菜づくりに挑戦する「パパイズム農園」の様子は公式Instagramで公開中です。「ＪＡ全農えひめ パパイズム」で今すぐ検索＆フォロー！

R E A D E R S 通 信

特集　ＪＡタウン ＪＡ全農えひめ直販ショップの取り組み

直販ショップの取り組みは、私達生産者にとって所得向上にもつながっており、全国の消費者の皆様に安全・安心な農産物を届けて頂いており、大変ありがたいシステムです。

（大洲市・大本さん）

㊟この度、ＪＡ全農が運営する通販サイト「ＪＡタウン」で、評価の高いショップや商品をたたえる2025年度の「ＪＡタウンアワード」の結果が発表され、ショップ部門でＪＡ全農えひめ直販ショップが１位に輝きました。

これもひとえに、生産者さん、ＪＡ、集荷場からの商品の提案・出荷協力のおかげですし、購入いただいているお客様のおかげです。ありがとうございました。引き続き、ＪＡ全農えひめ直販ショップをよろしくお願いいたします！

Topic News「はだか麦のまろやか黒酢」を使った料理に挑戦！

親子で楽しく料理をしながら、「はだか麦のまろやか黒酢」の魅力を知る事が出来る良い企画だと思いました。家庭でも取り入れてみたいと感じました。

（今治市・PN：おひなさまさん）

㊟FM愛媛親子料理教室は毎年夏休みの８月下旬と、春休みの３月下旬に開催しています。パパイズムさんの人柄もあり、参加した親子の皆さんから「是非また参加したいです」と、嬉しいお言葉を頂戴しております。「はだか麦のまろやか黒酢」はファミリーマート・全農ふれっしゅ広場やお近くのＪＡ直売所で購入出来ます。ＪＡ全農えひめのHPにパパイズムさん監修のレシピも掲載しておりますので、是非ご覧になってください！

農の風景－応援！農業人⑱－きゅうりの栽培

農業を継いで頑張る若者の姿勢に頭が下がります。祖父の代から続くきゅうり栽培に土地を守る使命感。父が病に倒れ、失敗続きの農業に試行錯誤の毎日。暑さや台風、イノシシ被害など苦労は絶えませんが、とびきりの笑顔で農作業に取り組む姿に感謝です。頼もしく応援しています。

（新居浜市・PN：なおちゃんさん）

㊟森本さんを取材し、色んな話をお聞きしましたが、その中で最も印象的だったのが2022年12月の大雪です。たった一人で真っ暗な中、一晩中８棟のビニールハウスの雪下ろしを繰り返しました。あまりの大雪のため、１棟を下ろしていると、また別のハウスに雪が積もる。その作業の繰り返しです。心が折れることなく、７棟を守った森本さんの気力・体力に感服いたしました！

Topic News はだか麦収穫本格化

39年連続生産量日本一はすごい。愛媛はかんきつだけではない。スーパームギムギマンのキャラクターもかわいいです。麦ごはんのパックご飯を食べてみたいと思います。

（四国中央市・PN：日本三国さん）

㊟スーパームギムギマンかわいいです、は他の読者さんからもおハガキをいただきました。ありがとうございます！

令和７年産の愛媛県のはだか麦収穫量は5,700トン。２位が大分県で2,750トン。３位が香川県で2,230トンとなっています。全国の収穫量が16,500トンですので、占有率は34.5％を占めています。愛媛県の誇りとして、この連続記録を続けていけるよう、県行政・関係機関との連携により、基本技術の徹底と生産拡大に取り組みます。



えひめ野菜のイメージキャラクター「乱太郎」

年間購読のご案内

月間技術情報誌「果樹園芸」

この一冊を読めば、愛媛の果樹の栽培技術・流通情報が丸わかり！

■年間購読料：4,320円

■お申し込みはＪＡ全農えひめホームページからどうぞ



今月のクイズ

今回の特集のタイトルで、下記に入る文字は何でしょうか？

環境と調和した持続可能な農業の実現に向けて
～「グリーンメニュー」と
「よりよい○○○○」の一体的推進～

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を５名様にさしあげます。



応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

2026年９月25日（当日消印有効）

発　表

「あぐり～ど」10-11月号で発表します。

当選者発表

６-７月号の答えは「㊸㊾年連続」でした。たくさんのお便りありがとうございました。
厳正な抽選の結果、次の５名の方に図書カード1,000円分をお送りします。

そうちゃんさん（松山市）
島の古本屋さん（越智郡）
アリタンゴさん（松山市）
るなっぴーさん（今治市）
いっちゃんさん（八幡浜市）

NOW NOW COOKING

今月の素材 ピーマン



▶（上）ピーマンの塩昆布ナムル、（右）ピーマンのひんやりポタージュ、（左）つくねピーマン



濃い緑色の爽やかな苦みと
パリッと食感で、暑気払いを

指導／愛媛調理製菓専門学校　永野　佳那 先生

つくねピーマン

〈材料・４人分〉　※１人あたり約207kcal

	ピーマン	６個
	片栗粉	適量
Ⓐ	鶏ミンチ肉	200ｇ
Ⓐ	木綿豆腐（水切り）	150ｇ
Ⓐ	卵	１個
Ⓐ	片栗粉	大さじ１
Ⓐ	マヨネーズ	大さじ１
	たまねぎ	1/4個
	ホールコーン	30ｇ
	にんじん	20ｇ
	サラダ油	適量
	酒	大さじ３
Ⓑ	酒・醤油・みりん	各大さじ２
Ⓑ	砂糖・オイスターソース	各大さじ１
	サラダ野菜	適量

〈作り方〉
①ピーマンの上下を切り落とし、種を除き、３等分に切る。
②たまねぎとにんじん、①の切り落としをみじん切りにする。
③Ⓐと②、ホールコーンを袋で混ぜ合わせる。
④別の袋に①と片栗粉を入れて振りまぶし、バットに取り出す。
⑤③の袋の端を切り、絞りだして④に詰める。
⑥フライパンにサラダ油を熱し、⑤を両面焼き、酒を入れて蒸し焼きにする。
⑦Ⓑを⑥に絡め、皿に盛りつけ、サラダ野菜を添える。

ピーマンのひんやりポタージュ

〈材料・４人分〉　※１人あたり約171kcal

	ピーマン	４個
	たまねぎ	1/2個
	じゃがいも	150ｇ
	バター	20ｇ
	水	300cc
	コンソメ（キューブ）	１個
Ⓐ	牛乳	200cc
Ⓐ	生クリーム	50cc
	塩	適量

※トッピング（生クリーム、ベーコン等）

〈作り方〉
①ピーマンとたまねぎをせん切りにする。
②じゃがいもはいちょう切りする。
③鍋にバターを熱し、①②を炒める。
④全体にバターがまわったら、水とコンソメを入れ、やわらかくなるまで煮る。
⑤粗熱を取りミキサーでまわし、ボウルに移しⒶを加え混ぜ、好みの塩味をつける。
⑥カップに注ぎ、好みでトッピングを飾る。

ピーマンの塩昆布ナムル

〈材料・４人分〉　※１人あたり約45kcal

	ピーマン	３個
	もやし	1/2パック
	にんじん	1/4本（50ｇ）
	ツナ	50ｇ
	塩昆布	10ｇ
Ⓐ	ごま油	小さじ２
Ⓐ	醤油	小さじ２
	白ごま	少々

〈作り方〉
①ピーマンとにんじんをせん切りにする。
②ツナは油を切る。
③耐熱ボウルに①②ともやし、塩昆布を入れ、ふんわりとラップをする。
④600Wの電子レンジで２分加熱し、取り出して混ぜ、さらに２分加熱する。
⑤Ⓐを加えて和える。
⑥器に盛り、白ごまをふる。



あぐり～と
2026
8-9月号 No.1054
●発行／全農愛媛県本部 〒790-8555 松山市南堀端町2番地3 ●編集人／大家 宏之
●編集部／総務課☎(089)948-5307 ●印刷／コープ印刷㈱



「ＪＡ全農えひめ」Instagram
Follow Me！
ZENNOH_EHIME

「えひめの食」Instagram
Follow Me！
EHIMENOSYOKU

あぐり～どはWEBでも読めます
https://www.zennoh.or.jp/eh/about/information/